

2004年5月24日

各位

株式会社UFJホールディングス
(コード番号8307)

UFJグループ新体制の発足にあたって

UFJグループは、市場の信任を回復すべく、2002年12月に公表した『改革加速プラン』に沿って、不良債権処理等の資産健全化を軸に、グループ戦略の具体化や事業収益力の強化等に努めてまいりました。

しかしながら、昨年度は、事業収益力を示す実質業務純益は計画通り好調に推移したものの、与信関連費用の増加により赤字決算となり、普通株の配当も見送ることと致しました。

当グループとしては、かかる事態を極めて重く受け止め、今般、経営体制を刷新し、過去を断ち切り、以下骨子に掲げた経営改革を断行してまいり所存です。

市場の信任を早急に回復し、お客さまに一層ご満足いただけるサービスを提供しつつ、株主価値の向上を図ることが、新経営陣一同の使命と認識しております。

なお、詳細につきましては、別途、新経営計画として公表する予定です。

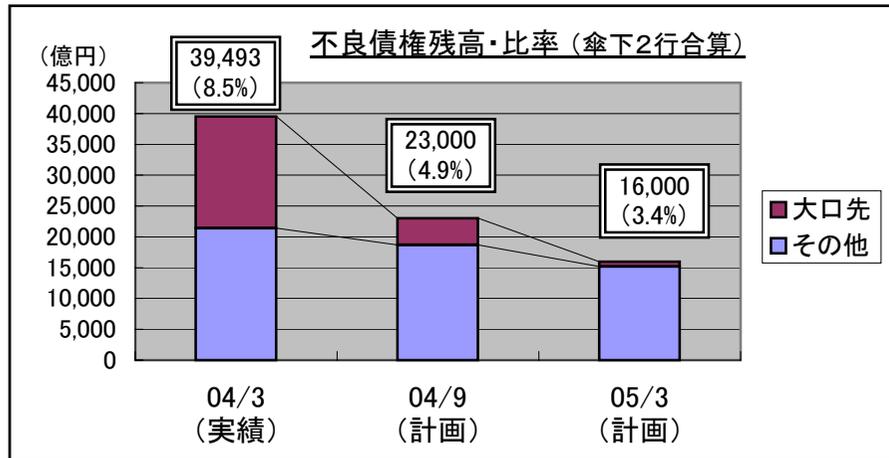
《 改革の骨子 》

1. 財務健全化の完了
 - ・ 04年度末には、開示不良債権比率を3%台へ
 - ～ 上期中に大口貸出先問題への対応を完了
(UFJ銀行に特定大口先専担部署を新設)
2. 総合金融機能の強化
 - ・ 総合金融フォーメーションの進化(選択と集中)
3. “新たな領域”への事業拡大
 - ・ 新領域で業務純益2,000億円(07年度)のビジネスへ
4. 改革を断行する新体制の確立
 - ・ “成長戦略”実現に向けた組織対応・資源投入
 - ～ 拠点体制・本部組織を大幅見直し
 - ・ ガバナンス機能の強化
 - ～ 持株会社による傘下会社への経営監督機能を強化
 - ～ UFJ銀行に「リスク管理委員会」(仮称)を新設
 - ～ UFJ銀行に頭取直轄の「経営改革委員会」(仮称)を新設

◎財務戦略 ～市場の信任を回復

◆04年度中に財務健全化を完了

- 不良債権問題から決別 ⇒ 不良債権比率“3%台”へ
- 上期中に大口先対応完了 (UFJ銀行に特定大口先専担部署を新設)
- 事業再構築を加速し、資本の質・株主価値を向上



◎成長戦略 ～“新たな領域”への事業拡大

◆スモールビジネス・マーケット

- 『ビジネスパッケージ』の展開
…与信、決済、オーナー向け運用商品等をパッケージ化

◆ビジネスオーナー・マーケット

- 『ワンストップ・フィナンシャルサービス』の提供・強化
…信託、証券、保険等、規制緩和に積極対応

◆マスリテール・マーケット

- 『カードビジネス』の飛躍的拡大
- UFJ24“セカンドステージ”、超軽量店舗100ヶ店展開

◆他ビジネス

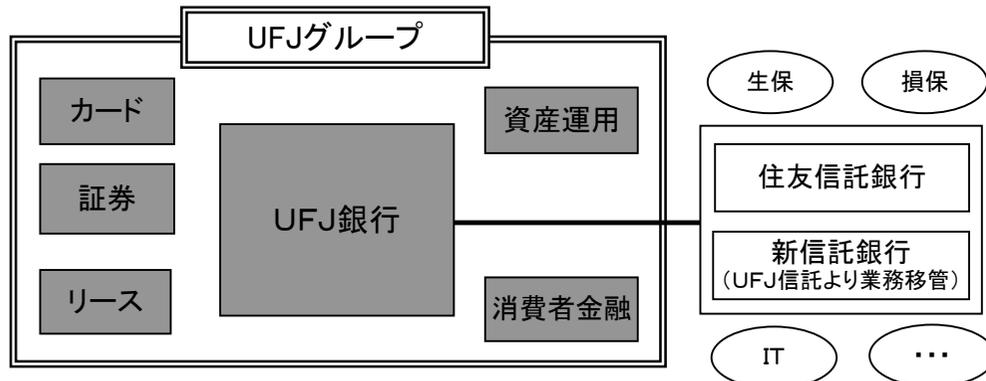
- 再生支援をベースとしたインベストバンキングビジネス
…UFJ銀行、UFJつばさ証券、UFJSP等、グループノウハウを結集
- インソースビジネス
…保証業務(モビット)、サービシング業務、事務インフラ業務等

新領域で業純2,000億円(07年度)のビジネスに

◎グループ事業戦略 ～総合金融機能の強化

◆総合金融フォーメーションの進化(選択と集中)

- 強みのある分野は自前で増強 ……カード事業など
- 専門機能はアライアンスで ……信託、保険など



◎グループ体制 ～過去との決別、改革断行組織へ

◆“成長戦略”実現に向けた組織対応・資源投入

- 拠点体制、本部組織を大幅見直し (本部組織は04/上期に変更完了)

◆ガバナンス機能の強化

- 持株会社(UFJH)による傘下会社への経営監督機能を強化
- 各社の内部管理・牽制機能を強化
～ UFJ銀行に「リスク管理委員会」(仮称)を新設 (外部専門家も招聘)
- UFJ銀行に頭取直轄の「経営改革委員会」(仮称)を新設